

赤松小三郎講演会のお知らせ

赤松小三郎研究会では、このところのワクチン接種の進捗状況等を踏まえ、昨年中止・延期しました第7回赤松小三郎講演会を、2021年12月12日（日）、日比谷図書文化館コンベンション大ホールで開催することといたしました（詳細は添付資料ご参照）。

講師は、歴史家 安藤優一郎氏で、「赤松小三郎と勝海舟」をテーマに、お話しいただきます。安藤優一郎氏は、著名な歴史家で、数々の歴史書を著わされていますが、お母様が旧神科村ご出身とのこともあって、早くから赤松小三郎に注目してこられました。

今回の講演では、小三郎の師である勝海舟との「生きざまを重ね合わせることで、どのような人脈のもと赤松の先進的な思想が形成されていったかを明らかにします。」とのことで、大変興味深いお話をお伺いできるものと存じます。

皆さまには、ご家族、ご友人等とお誘い合わせのうえ、是非とも、ご参加賜りたく、ご案内申し上げます。

当日、講演会会場でお迎えできることを心から楽しみにしております。

- 日 時 : 12月12日（日） 午後2時～午後4時半（受付開始 午後1時半）
場 所 : 日比谷図書文化館（旧日比谷図書館）コンベンション大ホール（地下1階）
<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>
講 師 : 歴史家 安藤優一郎氏
演 題 : 「赤松小三郎と勝海舟」
参加費 : 1,000円
定 員 : 100名（先着順 お早めにお申し込みください。）
お 申 込 : Eメールで事前のお申し込みをお願いいたします。
Eメール : kannazuki-6318@kxb.biglobe.ne.jp
（お名前、ご住所、本講演をお知りになったきっかけなどをご記入ください。）
（Eメールをご利用できない場合：電話：070-2685-2384（事務局 小山））

小山平六（赤松小三郎研究会事務局）
携帯：070-2685-2384
Kannazuki-6318@kxb.biglobe.ne.jp

講演会のご案内

赤松小三郎と勝海舟

2021
12月12日
(日)

赤松小三郎 ～幕末に誰よりも早く日本近代化のグランドデザインを描いた男～



赤松小三郎
上田市立博物館蔵

幕末、信州上田藩士赤松小三郎は、京都で開いた洋学塾などで多くの英才を育てるとともに、わが国の近代化に向けてのグランドデザインを描きその実現に力を尽くしました。

残念ながら、赤松は、1867年（慶応3年）37歳で志半ばにして暗殺されましたが、その先進的な政治思想と優れた洋学の教えは日本の近代化に大きく貢献しました。

当研究会では、今回、歴史家で幕末史に詳しく、数多くの本を著されている安藤優一郎氏をお迎えし、「赤松小三郎と勝海舟」についてお話をお伺いします。



勝海舟
提供 大田区立勝海舟記念館

日時：2021年12月12日（日） 講演 14:00～16:30（受付開始 13:30）

会場：日比谷図書文化館 地下1階コンベンションホール（裏面案内図ご参照）

参加費：1,000円（当日会場受付にて申し受けます）

対象：幕末の歴史にご興味ある方であれば、どなたでも大歓迎です

定員：100名（先着順 お早めにお申し込みください）

講師 安藤優一郎氏 略歴



1965年（昭和40年）千葉県生まれ。歴史家。早稲田大学文学研究科博士後期課程満期退学。文学博士（早稲田大学）。江戸をテーマとする執筆・講演活動を展開。

JR東日本大人の休日倶楽部趣味の会などの生涯学習講座の講師を務める。『お殿様の人事異動』（日経プレミアシリーズ）、『明治維新 隠された真実』『河井継之助』（日本経済新聞出版社）など著書多数。

講師からひとこと

赤松小三郎の師は、坂本龍馬の師でもあった幕臣勝海舟でした。海舟は薩摩藩をはじめ諸藩に幅広い人脈を持っていましたが、赤松も同じです。

海舟の場合は、その人脈が先進的な思想形成の基盤となりましたが、そうした事情は赤松にもあてはまりません。今回の講演では師弟にあたる海舟と赤松の生きざまを重ね合わせることで、どのような人脈のもと赤松の先進的な思想が形成されていったかを明らかにします。

お申込は

赤松小三郎研究会事務局（Eメールで事前のお申し込みをお願いいたします）

Eメール：kannazuki-6318@kxb.biglobe.ne.jp

（お名前、ご住所、本講演会をお知りになったきっかけなどご記入ください）

Eメールをご利用できない場合：電話：070-2685-2384（事務局 小山）

（提供いただく個人情報は講演会の案内などの目的で適正に取扱うとともに、目的外利用はいたしません）

主催 上田高等学校関東同窓会赤松小三郎研究会



赤松小三郎【天保2年(1831年)～慶応3年(1867年)】

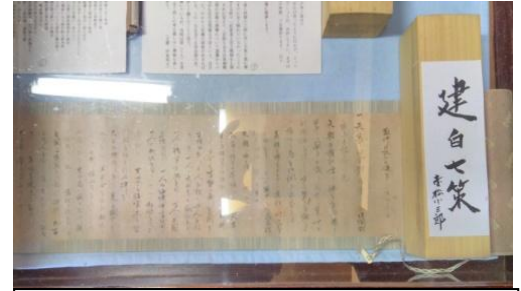
幕末の信州上田藩士。江戸に出て内田弥太郎、下曾根金三郎に師事し、数学、天文、測量、暦学、蘭学、砲術を学ぶ。その後勝海舟に入門し、その侍として長崎海軍伝習所で航海術などを学ぶ。さらに横浜で英国士官アプリンから英語、英国兵法などを習う。

幕末の京都で開いた私塾や薩摩藩邸、会津藩邸で洋式兵学を教えた。諸藩より学ぶ門下生の数、800余名。その中には東郷平八郎元帥、上村彦之丞大将など日清、日露戦争で活躍した諸将が含まれる。薩摩藩島津久光侯の委嘱により「重訂 英国歩兵練法」を翻訳した。

慶応3年5月、前政事総裁職（前福井藩主）の松平春嶽侯、島津久光侯及び幕府に建言した「建白七策」は、今後の政体構想と国家のグランドデザインを描いたもので、政治史のなかで輝いている。

天幕一和、諸藩一和のもと上下二局の議政局により内憂外患のこの時期を乗り切る方策を模索し、西郷隆盛や徳川慶喜への働きかけを行うなど、最後まで東奔西走したが、明治維新直前の慶応3年9月、京都において弟子の薩摩藩士桐野利秋らにより暗殺された。享年37。

上田市（上田城跡公園内）に赤松小三郎記念館がある。



建白書複製（赤松小三郎記念館）
原資料は鹿児島県歴史史料センター
黎明館蔵



■会場のご案内

〒100-0012

東京都千代田区日比谷公園 1-4

日比谷図書文化館（地下1階）

日比谷コンベンションホール

（大ホール）（旧 日比谷図書館）



都営地下鉄 ● 三田線「内幸町駅」A7出口／徒歩3分
東京メトロ

● 丸の内線 ● 日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口／徒歩3分

● 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口／徒歩3分

JR「新橋駅」日比谷口（SL広場）徒歩10分

※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。